

磐城時報

編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 磐城時報社
發行所 磐城時報社
電話 一四七
廣告料 一行十四字 一月五拾錢
日刊 (日曜、祭日) 休刊

錦老婆殺し犯人 十七歳の青年と確定 平検事局で起訴

石城郡錦村の老婆殺し事件は植田警察署に於て犯人捜索中の處被害者助川アキ(八一)の養子忠吉の孫アキの曾孫に當つてゐる助川春雄(十七)假名を有力な嫌疑者として取調べ中の處、眞犯人と判明したので平検事局では特に福岡検事正の出張を乞ひ協議の結果起訴を決定したので十三日中谷警署判事が出張取調べを行つた上、昨今日中平刑務所に送送する運びに至つた春雄の申立てによると春雄はアキの賣り溜金を時々盗み見たり三日前も老婆にしがらみ頭を叩かれた事もあり之を深くうらみに思ひ殺意を決したもので、春雄は常に老婆と寝起きを共にしてゐたが、兇行當夜は同村大字長子の夜祭りに行つて懇々と家の留守に深更土臺下を掘つて侵入、アキを以て絞殺したもので更に驚くべきことは八十一歳になつた老婆を殺した事、尚ほ盗金の所爲らしくよそをばんが爲め現金並に預金通帳其他を窃取し何喰はぬ顔をして自宅に歸つて寝たものであるが兇行當時の足袋は春雄の申立通り勿來町の國道に通ずる道路側の田の中より発見され、又老婆の死體解剖の結果後辱の事も本人の申立てと一致し深

三炭礦の 共同販賣 協定破る

常磐地方磐城、大日本、大倉の三大炭礦では難局打開策として共同販賣所を設け炭價を協定し十七歳の機軸青年であり、現值維持に努めて来たが、昨今に郡農會主催の中堅青年講習の不況から財的に極度の行詰まりの會員であり、思想も堅實にして現に農事に従事し、大それた現行な事をしたと云はれたるに因り、因に家庭は中以上の生活で、父忠平は郡農會議員並に農事組合長の榮職にあしに崩れて行くので各炭礦共前より頗る平和な家庭である。

平水道委員会 平町

石城郡好間村、越炭礦坑夫宮谷三代治(四二) 十三日午後七時頃作業中炭酸ガスのため窒息死亡した。

キャンブ生活の農學生 仁井田浦で溺死

田村郡飯豊村字小野山上居住者岩瀬須賀川町岩瀬農學校三年生大河原多助(十九)は数日前から同僚三名と共に石城郡大浦村新舞子海岸に於てキャンブ生活を營んでゐたが、十三日午後二時頃大浦村大字上仁井田横川港口で水泳中心臓麻痺を起して死亡したが、同箇所は約二十間程の深さなので附近の者は地曳網を

自動車に 跳ね飛ばさる

平町鍛冶町一番地太作三男飯島トシ(七)は十三日午後四時頃頃道路で遊戯中平町三丁目小林清(七)が運轉してゐた平好間乗合自動車に跳ばされ重傷を負ひ安濟病院で加療中である

新舞子で溺れた青年 元海軍兵に救はる

石城郡草野村草野驛前新妻三郎委員を開き協議した結果いづ(十九)は十三日午後一時半頃同郡大浦村新舞子海岸で水泳中溺死せんとするのを元海軍兵で木炭検査員をしてゐる永山高が發見し海中に飛び込んで救助した。

低空飛行

朝日機來訪
東京朝日新聞社では十七日石城郡訪問飛行を行ふ事になつたが同日木下飛行士は純國産の小型飛行器を操縦して午前十一時半平町上空に飛來し平上空で低空の旋回飛行をなし數萬の宣傳ビラを撒布する等、この中に乗物スピード双六並に朝日グラフの引換券を入れて撒く由である正午四倉海岸に着陸し飛行器の説明をなす。

海盛座の園藝團

四倉町海盛座に於ては来る十五日より隆の家女流演藝團一行の出演してゐたものであつた。

石城の無産黨 近く合併か

石城方面に於ける大衆黨及び社民黨間には最近合同の氣運が動きつゝあるが、去る七日夜大衆黨高橋、加藤木、社民黨松本、綿引、渡邊の各幹部は社民黨松本宅に會し合同の相談をなしたが、其後兩黨ともおの／＼擴大

相馬支局通信

▲原町の盆踊り 原町とあつて十一日から七日間「需鎮座三島神社の祭禮は来る十八日家用奉仕デー」として大曲所長日なるが人氣恢復慶祝の盆以下所員總出で各家庭を訪問し踊りは宵祭の十七日から二晩踊種々電氣の説明をしてゐる。

不動澤炭礦坑夫を 殺人の嫌疑で告訴

平署で取調べ中
平警察署では十三日午後管内内同炭礦と同村杉炭礦との感情衝動村不動澤炭礦から朝鮮人坑夫突、起因して杉山炭礦業所長松本照、外一名を召喚して極秘藤田爲作氏を殺害せんとして鮮理に取調べ中であるが、之れは二人名を使喚して計劃した嫌疑庭に於て舉行した。

田卷、長瀬、綿引三君の自轉車旅行

門司市にて
次には街裝の零点と街路の不完全さが果然たらしめ、其處には饒れた東京的、横濱的よさは別な大阪的、敗者がある。塵煙に煤けた喧嘩する都市、それが下關市のニツクチムか。

ランブの部落

郡福浦村上浦部落三十七戸は過般部落民大會を催し電燈料値下げを請戸川電氣に交渉したるに會社側にて一切を拒絶したる爲め全部ランブを使用飽く迄でこれに對抗すると。

最古參の巡査

滿三十五年四月勤務の相馬郡中村署勤務會計係木村吉五郎(五八)は同郡大聖村の生れで廿二歳の明治二十八年八月八日本縣巡査を拜命、桑折署を振り出しに今日に至つた本縣最古參の巡査である、今回サーヘルと別れる事となり、想へば夢の様ですと感慨無量の態であつた、何れ勤続年數からも珍らしい事である。

弓道大會

濱三郡弓道大會は十日午前十時より相馬道大會は十日午前十時より相馬郡中村町原釜海水浴場東洋館前に於て舉行した。



平の関を
田卷、長瀬、綿引三君の自轉車旅行
門司市にて
に蒸氣は對岸門司市に着くことが出来る。アノ下關のニツクチムをそつくりその儘持つて來たものが此の門司市だ。よく似たものだが僕等は感心する。若し無理に兩市を引き離して考へ様とするならば、街の古きから入れば、其處には断然な相違がある。門司市は新興都市として有名だ、此處では淺野セメント其他の諸工場が濼々と噴煙する空氣が極く混濁し、磐城、入山の各炭礦地に共通し、傾斜に沿つて近代の建築が不規律に街なしてゐる。午後二時僕等は門司市外大里草野氏宅に着くことが出来た。此の僕等の壯圖の終點が實に此處なのである。僕等は此處で四、五日休養する。そんな贅澤なことを言つても決して僕等はガツ／＼と居ない、近頃は山もある河もある、それからは登山、海水浴場もある、僕等は登つて泳いでうんと眞つ黒になる心算だ。僕等は益々健康だ。次は前番で未定にかに置いてあるが、實はいまだに其れは確定してゐない。僕等は其れで四五日の余裕を持つてゐるから落ち付いて考へ進んで、四國を汽船で迂回してやるとする、其れ迄は具體してゐるのだが、陸地は具體車を使用するが、陸地は具體車を使用するが、陸地は具體か、海岸筋を反復するかは未知數に屬する。

◎詩の雜感(二)
飯村 開舟

働けぞ
働けぞ
わが暮し
ゆたかならず
じつと手を見る
こは石川 啄木の歌だ
この歌を愛誦する青年は無限
りない、社会と詩人のコント
ラストから至る處にセンモイ
ジョンを捲起してゐる現実に
即した實踐的詩は永久に消え
ぬだらう。

お前の心は枯れ初めた
私も、いつか散るだらう
永い道路だつたね
苦しい旅だつたね
だが、もう私たちが
再びあの日がめぐつて
来ない
すいぶん不幸だつた
お前のためにも
それから貪しくあわ
れたつた

の人生の詩は勝田 香月の詩
だ、苦難を越え、獨學者の爲
めに教示を興へる熱と情の彼
の詩は若き學生間を風靡して
ゐる。

くるしいか
くるしいか
いまこそ
みんなに此のくるしみが
しのべるか
おんみは人間の聖母
じつところえろ
人間の強さを見せて
くるしいか

之は山村 暮鳥の詩だ、
彼は以前、好間村に居住し、
後日、茨城縣磯原に轉居し、病
患の苦衷を訴へつ、天折した
礎に磐城中学校の文會に關係
してゐた如く記憶する。

葵 花物
五色物

安く譲ります
平町新川町(郵便局裏)
中野勇吉
電話一三三番

暑 暑
氷 水はイツモ氣持の
ヨイ
藤寅へ

水 水
同いちご 八八四 水あづき 同白玉 同十五 同十五
同れもん 八八四 同ラムネ 同十五 同十五
同ぶごう 八八四 同玉子水 同十五 同十五

あつきアイリス 金十五 金十五
アイスクリーム 金十五 金十五
水セーキ 金十五 金十五
ミルクセーキ 金二十 金二十

御注文は電話一四二番へ出前迅速
平町一丁目 **藤寅**

平町田町(電話五二三番)
高久病院
醫學士 高久 忠
新潟醫學士 赤羽 清雄
藥劑士 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

貸切自動車は
乗心持のよい
磐城タクシーへ
電話四五四番(平驛前)

耳鼻咽喉科専門
気管食道科専門
病室完備・自炊の便あり
平町南町 **大和田醫院**
電話一七〇番

清楚な サロン
明るい サロン
洋酒は サロン
田町通り
清楚な食堂 **サロク**
電話三五二

食事は サロン
奉仕は サロン
僕等の サロン
サロンの公休日は毎月(第三火曜H)に変更いたしました

耳鼻咽喉科専門
入院 應需院 **合津醫院**
平町仲田町七一
電話五五九番

支那六神丸
特約店 平町五丁目 山野邊藥局

吸入用酸素酸素吸入器
正確な体温器、寒暖計
特約店 磐城平町 内藥局
電話四〇番

夏服
輕快で瀟洒な夏服の季節となりました。スマートな今年度の新製品が豊富に取揃ひました。

- ◆輕裝上衣 黒セル 4.20
- カシミヤ 10.00
- ◆白直衣 1.60
- ◆白ツボン 2.60

平二 **ふかや洋服店** 電話203

本日より
柳川井 (御一人前) 金四十錢
柳川なべ (同) 金卅五錢
相始めました共に不相變御最負の程願ひ上げます
▽……出前迅速……△
御料理 **石川亭**
電話四三番

ラヂウム温灸器
胃腸病の必治法
一貫や二貫らくく肥る世界的健康法

特約治療部
福島縣平町五丁目二八
志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九
産婆 **關口悦子**

「温灸治療法」百二十頁の美本無代進呈
平看護婦會
會長 清野キヨ
平町字南町(電話三〇七番)
看護婦派出の需めに應じます